

《 競 技 上 の 注 意 》

審判長 中元 孝司

1 ボール及びボールの選択について

- (1) ボールは、白色スリースター・40mm プラスチック球【ニッタク(プレミアム)、VICTAS(VP40+)、バタフライ(R40+)】を使用する。
- (2) 試合ボールは、審判員が持参したボールケースの中から審判員が無作為に選ぶ。

2 ラバー、ラケットについて

- (1) ラバーは、ラケット本体より大きかったり、小さかったりしないこと。
- (2) 外国製ラケットで、JTAA のマークのないものを使用する場合には、あらかじめ試合前に審判長の許可を受け、試合の際は発行された許可証を携行すること。
- (3) ラバーには、(公財)日本卓球協会が公認したことを示す JTAA または、ITTF 公認のロゴがなければならない。
- (4) ラバーの後加工など、ルールに反する行為は厳に慎むこと。また、表面が均一でないラケット、ラバーの厚さが規定を超えるラケットは使用してはならない。

3 接着剤の使用について

- (1) ラバーの接着剤は、(公財)日本卓球協会が公認した接着剤あるいは PSA シートを使用しなくてはならない。
- (2) 接着剤を使用する場合は、指定されたラバー張替え所で行うこと。

4 服装について

- (1) 競技服装は、(公財)日本卓球協会(赤ワッペン)のものであれば、どのような色でもよい。黒ワッペン、白ワッペンのうち主たる色が白のものは着用できない。ベンチ内では、監督・アドバイザー・選手は白いトレーニングウェアやシャツなどの着用を避けること。
- (2) 同一チームの選手は、靴及び靴下を除いて同一の服装で競技しなければならない。
- (3) 対戦する選手は、互いに区別できる程度に異なった服装で競技しなければならない。
- (4) ゼッケンは、2023 年度の(公財)日本卓球協会指定のものを着用すること。

5 競技の継続とマナーについて

- (1) 競技者・監督・アドバイザーは、相手に対して不当な影響を与え、観客に不快感を与え、または、そのゲームの評判を落とすような癖や態度を慎まなければならない。
- (2) 競技者・監督・アドバイザーのバッドマナーに対しては、競技ルールに従ってペナルティの対象となる。
- (3) ラリーとラリーの間が長くならないように心掛け、遅延行為はバッドマナーであることに注意すること。

6 その他

- (1) 6月17日(土)13時開始予定の学校対抗の試合は12:30 オーダー交換とする。その後、1日目予定されている学校対抗1~2回戦のオーダー交換は、試合開始予定時刻の20分前とする。その時間に対戦校が未定の場合は、決まり次第交換すること。オーダー用紙は記入後5枚複写のまま封筒に入れて提出する。
- (2) 6月18日(日)9時開始予定の学校対抗2回戦のオーダー交換は8時30分とする。3回戦以降は、対戦校が決まり次第放送で案内する。
- (3) 個人戦(ダブルス・シングルス)のアドバイザーのベンチ入りについて
 - ・アドバイザーの資格は、大会申し込み時にエントリーされた監督、または当該校の選手1名に限る。
 - ・アドバイザー(1名)は、試合開始時に選手とともに競技場に入場する。ただし、他のコートでアドバイスをしていた場合は、試合途中に空席のベンチに入ることができる。
 - ・アドバイザーが試合の途中で交代することはできない。また、アドバイザーは試合途中でコートを離れてもよいが、以後はコートに復帰できない。
 - ・1名で同時に複数のアドバイザーを兼ねることはできない。
 - ・学校対抗戦におけるゲーム間のアドバイスは、ベンチにいる監督・選手からに限る。
 - ・学校対抗戦、個人戦ともにアドバイスの時間は1分以内を厳守すること。
- (4) ベンチは本部席側を若い番号のチームとする。
- (5) 進行状況によりタイムテーブルや試合コートの変更をすることがある。
- (6) 競技領域およびベンチでの携帯電話やタブレットを使用しての通話・通信をすることを禁止する。
- (7) 無作為に選んで試合前のラケット検査を行う場合がある。
- (8) シューズの裏を拭くための雑巾などはベンチ付近に置く。ゲーム中は競技領域外に置くこと。床には直接置かず、よく絞ってからビニール袋などを敷いた上に置くこと。ゲーム間、タイムアウトのみ使用できる。